

About sMedio

社会に貢献できる豊かなマルチメディアライフを目指して

当社は、スピーディーに(Speed)、世界市場に向けて(Sphere)、ソフトウェア(Software)製品とサービスを提供するソフトウェア開発、サービス提供会社です。

2007年の設立以来、当社はマルチメディア、無線接続技術(ワイヤレスコネクティビティ)関連のソフトウェアの開発力で高い評価を獲得し、大手企業を顧客としています。

2015年3月に当社は東京証券取引所マザーズ市場に株式上場をはたし、今後は保有技術に磨きをかけて、IoT(モノのインターネット化)社会の実現に必要な、無線接続技術とセキュリティ関連分野でのリーディングカンパニーを目指します。快適で安心な近未来のIoT社会の実現に必要なソフトウェア・サービスをソリューションとして提供していきます。

sMedioの
強み

Media
処理技術

無線通信
技術

著作権保護/
認証技術

新製品を開発・製品化するための全ての要素技術を習得しており、マルチOS・マルチデバイスに対応できることが当社の強みでもあり、他社にマネのできない先端的な製品開発の源泉となっています。

ワイヤレスコネクティビティ関連製品を使うとこのようなことが可能になります。

技術開発力

明日をもっとコネクティブに。
インターネット化する社会。
その進化を、技術力とグローバルな展開
力で加速する。

新しい魅力

お客様のために、というミッション。
そのデバイスに先進の機能を、
新しい魅力を。
お客様のバリューを高める、
それが私たちのバリュー。

世界へ

アジアから世界へ。
人材や技術というリソースを、
国境を越えて結集し、革新的なソフト
ウェアを、いち早く世界へ。

sMedioが目指すもの

このような技術の保有という
強みを持っていることで

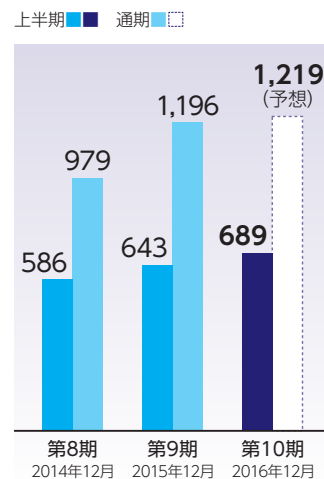
ワイヤレスコネクティビティ関連製品を
幅広く提供することが可能となりました。

様々なシーンで当社技術や製品が使われています。

連結業績ハイライト

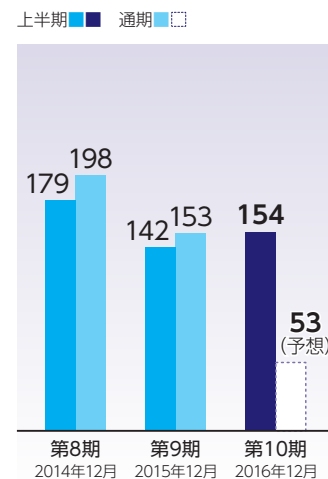
●売上高

(単位:百万円)

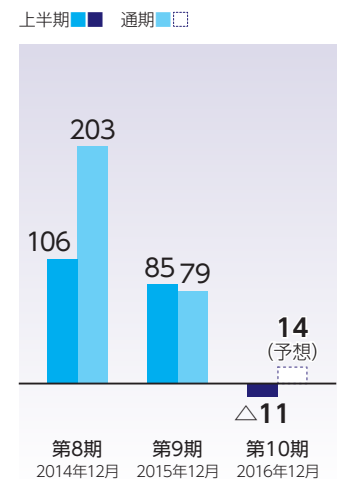


●営業利益

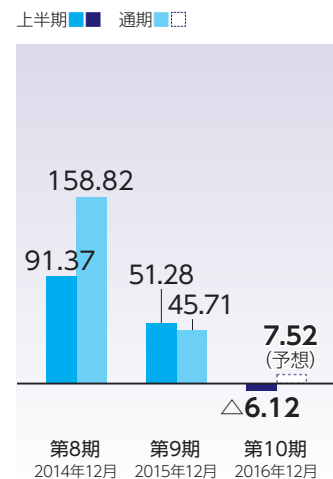
(単位:百万円)



●親会社株主に帰属する四半期
(当期)純利益 (単位:百万円)



●1株当たり四半期(当期)
純利益金額 (単位:円)



株主インフォメーション

会社の概要 (2016年6月30日現在)

社名	株式会社sMedio
本社所在地	〒108-0073 東京都港区三田3-13-16 三田43MTビル7階
設立	2007年3月16日
資本金	4億9,048万6,058円
従業員数	49名 (役員含まず、子会社従業員含む)
役員	代表取締役社長 田中 俊輔 常務取締役 岩本 定則 取締役 中村 嘉伸 取締役 黄 七零 取締役(社外) 落合 洋司 監査役(常勤) 石津 健鳳 監査役 渡邊 雅文 監査役 本郷 喜千
関連子会社等	sMedio, Inc. Taipei Branch (台湾支店) sMedio Technology (Shanghai) Inc. (中国) sMedio America Inc. (米国) 株式会社情報スペース 株式会社パイログ

株式の状況 (2016年6月30日現在)

発行可能株式総数.....6,000,000株
発行済株式の総数.....1,899,768株
株主数.....2,093名

株式会社sMedio

〒108-0073 東京都港区三田3-13-16 三田43MTビル7階

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
配当支払株主確定日	12月31日 (期末配当) 6月30日 (中間配当)
1単元の株式数	100株
証券コード	3913
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同連絡先	電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載する方法により行う。
公告掲載方法	

IRカレンダー

2016年	9月	
	10月	
	11月	●第3四半期決算発表
	12月	
2017年	1月	
	2月	●決算発表
	3月	●定時株主総会
	4月	
	5月	●第1四半期決算発表
	6月	
	7月	
	8月	●第2四半期決算発表

sMedio REPORT

Vol.3

第10期 中間株主通信 2016.1.1 >> 2016.6.30

ごあいさつ

当社は2015年3月に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。これもひとえに、皆さまのご支援・ご高配の賜物と深く感謝申し上げます。株式公開をさせていただきましたこと、御礼申し上げます。

当社は創業以来、デジタル家電、スマートデバイス、PC等に向けた最先端のソフトウェアを高い競争力で提供し、マルチメディアと無線通信関連技術のリーディングカンパニーとして実績を重ねてまいりました。

今、時代はIoT(モノのインターネット化)社会に必要な技術とサービスを求めており、当社は、①IPv6への対応、②相互運用性、③セキュリティに取り組んでいくことといたしました。

また、当社は、知覚認証(Cognitive Solution)と人工知能(Artificial Intelligence)を組み合わせたソリューションの開発も加速してまいります。

当社の強みである、スピード重視の技術開発と国際展開力をフルに生かし、ステークホルダーの皆さまが価値を感じ、満足感を得られる企業であることを志す所存であります。

今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

田中俊輔





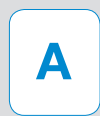
当社グループについて

当社グループをもっと知っていただくために、株主の皆さまの疑問にお答えします。

保有技術をブラッシュ・アップ！IoT実用化に向けた課題の解決策に！



7月に経営統合を発表したタオソフトウェア(株)とはどのような会社なのでしょう。



タオソフトウェア(株)は、Androidソフトの開発に定評があり、その技術力への信頼性から、大手企業とも継続的な取引をしている会社になります。同社は、新たな事業にも積極的に取り組み、VR(バーチャルリアリティ)関連での製品化の実績などもあります。

また、同子会社のリスクファインダー(株)は、Androidアプリの脆弱性診断をするソフトウェア(商品名:RiskFinder)を開発・販売するなど、デジタルセキュリティ分野で確かな実績を有しています。

両社の技術とsMedioの著作権保護/認証技術といったセキュリティ技術を組み合わせることで、デジタル

セキュリティ領域での様々なシナジー効果の発揮が期待できます。

タオソフトウェア(株)の概要

名 称	タオソフトウェア株式会社 Taosoftware Co., Ltd
所 在 地	東京都台東区東上野2-1-1
事 業 内 容	Androidソフトの開発、システム開発、システムコンサルティング、パッケージソフト開発。子会社リスクファインダー(株)を通じたRiskFinderの販売。
資 本 金	1,000万円
設 立 年 月 日	2005年3月17日



PICK UP

主力製品(サービス)と戦略

- アプリの脆弱性を検知するソフトウェアであるRiskFinderを販売。



主力製品と特長 ▶ RiskFinder

- Androidアプリの脆弱性、プライバシー、品質に関する問題を検出。

だけじゃない！

- 検出された問題をカテゴライズ。

さらに

- リスクレベル別に重要度を示す。

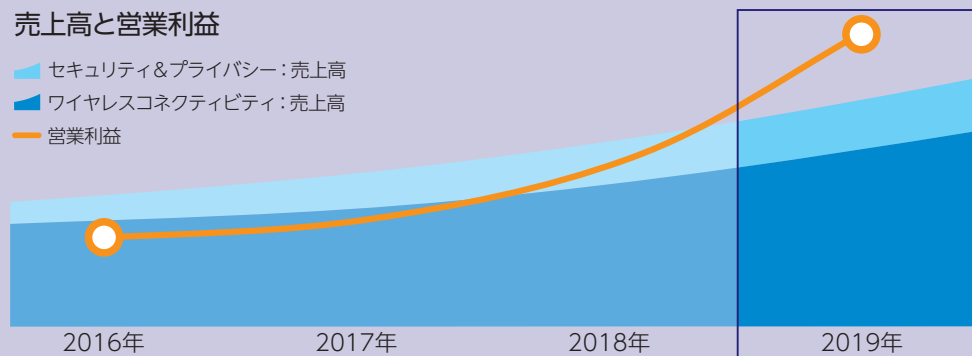
効果

- アプリ開発者個人の意識や経験に依存しない、アプリ開発時の品質担保に貢献。
- 専門知識がなくともアプリの脆弱性やプライバシーに関する問題を把握可能。
- アプリ全体の解析を省力化。

中期の成長イメージ

売上高と営業利益

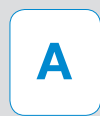
- セキュリティ&プライバシー: 売上高
- ワイヤレスコネクティビティ: 売上高
- 営業利益



2019年予想
売上高 20~25 億円
営業利益 5.4~6.8 億円



sMedioグループの今後の展開はどのようなものなのでしょうか。



グループ各社は、それぞれが強みとしてきた分野に、引き続き、注力しつつ、sMedioグループ全体としては、IoTQ 社会の実現を見据え、事業目的を軸に、IoTコネクティビティ事業と

IoTセキュリティ&プライバシー事業にグループ各社の力を結集させ、両分野でリーディングカンパニーとなることを目指します。

無線通信技術・Media処理技術:sMedio本体 IoTセンシングサービス:(株)ブイログ

この2つで、IoTコネクティビティ事業

無線通信技術(ワイヤレスコネクティビティQ)、Media処理技術を活かしつつ、異なる通信規格間の相互接続を実現させていただきます。

データバックアップ:(株)情報スペース デジタルセキュリティ:タオソフトウェア(株)、 リスクファインダー(株)

この2つでIoTセキュリティ&プライバシー事業

データやIoT機器のセキュリティとプライバシーを守るためのソリューションを提供していきます。

PICK UP

国内初、異なる通信規格(※)の機器同士を無線接続・制御させることを可能にするソフトウェア(sMedio IoT Device Gateway Solution)を開発

展示会(ワイヤレスジャパン2016)では、ルネサスエレクトロニクス株式会社様のルーターに応用例として参考出展。

ここが画期的！

IoT実用化には、機器同士が無線でつながることが必須。

しかし、世の中の機器には、色々な通信規格が組み込

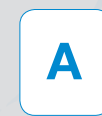
まれており、通信規格が異なると無線でつなげないのがIoT実用化・普及の妨げになると考えられている。

今回のsMedio IoT Device Gateway Solutionは、すべての規格ではないにしても、通信規格が異なる機器同士を、無線でつなぐことに道を切り開いた、ということが画期的。

※ 現在対応しているのは、Alljoyn®対応機器でのWi-Fi®、Bluetooth® Low Energy、ZigBee。



(株)情報スペースと(株)ブイログによる新規事業の進展はどのような状況でしょうか。



2016年第2四半期(1月から6月まで)において、(株)情報スペースと(株)ブイログの両社を合わせて、43百万円の売上を計上し、着実に実績を積み上げております。

(株)情報スペースが提供するデータバックアップアプリ・JSバックアップが、大手企業へのOEM供給が決まるなど、(株)情報スペースとsMedioとの協業が実績となって現れ、今後もさらなる成長を期待しております。

(株)ブイログは、BtoC分野では、発売したネットワークカメラQ (商品名:VLOG CAM)が雑誌に取り上げられるなどしましたが、一般消費者への知名度不足が否めない一方、BtoB分野では、VLOG Cloudを利用したサービスで実績を挙げております。

用語解説

cloud(クラウド) クラウドコンピューティングのことを指し、従前、PCやスマートフォンといった物理媒体がデータの保管場所であったのに対し、インターネット上にデータを保管する仕組み・概念のこと。

IoT Internet of Thingsの略称。モノのインターネット化とも呼ばれ、世の中に存在する様々な物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信すること。

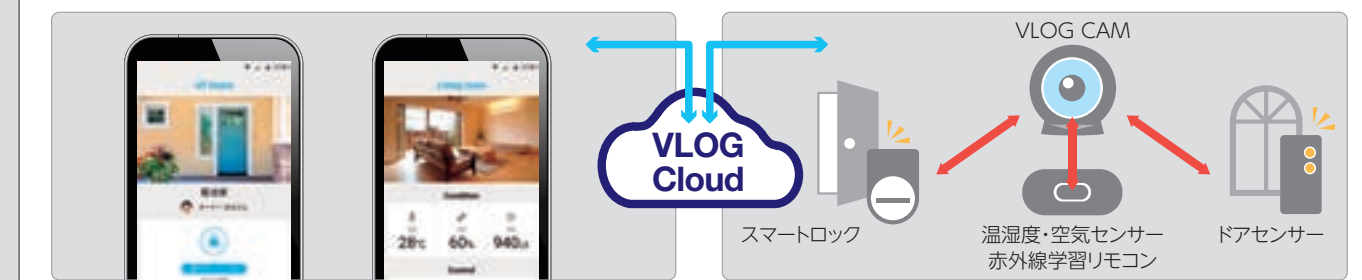
ワイヤレスコネクティビティ 近接接続から遠隔接続まで無線技術により、情報やメディアを共有・再生・転送を行ったりすること。

ネットワークカメラ 撮影した映像・音声をカメラ自体がインターネットに流す機能を有するビデオカメラの総称。

PICK UP

VLOGサービスをスマートホームIoTソリューションに活用！

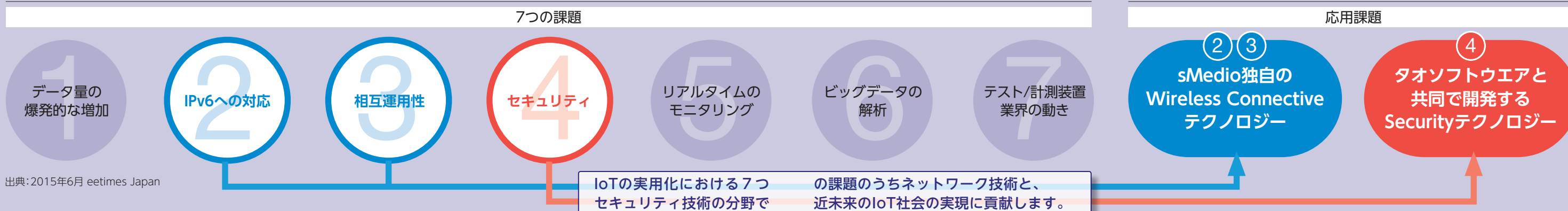
外出先から、自宅や店舗の映像を見ながら、様々なIoT機器をリモートコントロールすることができます。



グループ会社とsMedioの成長戦略

IoT実用化における7つの課題と

当社の事業領域



出典:2015年6月 eetimes Japan